

[illegible]

謝と配死。らんも今日に於て、栗乃在轉問、
 諸君及び當局者の湖處を乞はんと欲する者
 わる、能なし。職歴紀念に對する、事物の計畫
 是なり。

下説つては勢力配分比較的少額の費を以て軍
一教養測之に從ひては亦開闢費を省く又は
爲費として餘分開闢に充てるより無益の費
上擧して有餘なる學費を具すべしなからず
とは實に國家經營上説す可きの事情ならず

中諸國の地を、其各地を記載したる明証
 中諸國書は左の例の如し
 一 依州縣地圖 依縣山上の分の
 一 日本書紀 倭國書
 一 高麗書 高麗書 高麗書 高麗書
 右諸書大抵に於て、其地の内、水路、陸路、

他はば甘妻等の如く、日常の辛辛碌碌して事
 務の大煩瑣を専らして武人枚を執て職務を
 行ふ者士剣を捨てて起つて、吾々を南洲
 一歩を離つては遠き若君等の事、全く聞
 知の無い所待つて學に専ら。是處阿木武
 國等なし學政の本務は既に我有に勝し
 今や建武進歩の我輩は南洲の山郭を築く
 本東洋の「一進歩」を爲しての勇往たる體
 といふ其草創と評さるるに帝幣百五十万

桑下て牧畜の器具に關するところも數節を
拾ひて、四邊の地を表現せたる體裁は勿論と
加へて、警備資金を合して種々の事業を興
し、以て村落經濟の計畫をたんとするなり。警
備資金と合せんに、議會當局者又主權者となり
本國と地方の關係に關係し貯蓄を獎勵し、數割の
税局と得て、居民が貯蓄資金を合一すれば

貨物証明單（賣主以下のもの分）
 一、開浦白米。何百俵。
 沙里江安東縣光復西鄉
 右の賣主は賣場に於て買入或時間
 未滿賣出と主張し税關各處稅所に於

のまをせしめて戦勝の誠であるしむの形勢、
而も早晩金局の總干を見舞ふの策字内にも
然らば其の善人總干の善く爲る所なりと
然らば二五百年未だ會ひの大事に當り
國家拾年の宿望に酬ひ皇政を發揮したる
光と宜敷せしは是れ若我忠義義烈の同胞
無窮死生の苦辛を數ししにせしめて
雖か此大事に衝もなれん皇政光室の碑に
る所なり又通衢にも紀念計無きもして可

[illegible][illegible]

らんや、況ん今在韓島海外にある開港港
 に於て在や、吾國の威武を何するの術を講
 べ永遠に國光を後世に遺ふとするの奇策
 なるを測らず、徒に今特一一片の憂心を
 開聞無慮惑の勸懲深厚を促さんとすの所
 紀本物として其真諦多々或は神を離して
 忠義其義を辱するもの、紀本林と相違
 て永水の別花を收めざる可、或は華族を

[illegible]

品名	模範郵票	票價	一圓
出品者	日本帝國郵政	發行所	東京
出品年	大正	出品月	九月
出品日	九月	出品時	下午
出品地	日本	出品人	某
出品者	日本帝國郵政	發行所	東京
出品年	大正	出品月	九月
出品日	九月	出品時	下午
出品地	日本	出品人	某

して記念とするが如き、公園と設けて之は是れも如き事を鑑察、會堂、博物館等の如く能て水利の改善等類は其たれば其の如く進められざるなり、然れ共我輩が好む紀念物として其藤原公卿君に勸告するに當り、然らざるを以て満足する者にあらず、要するに利害あり趣味あり其傍ら久松等にして後世に遺すに足るの計畫あり

其の如く、現時に於て同僚諸君及當局者共、
 克く之を實行すべしとの果あらんや否、一言
 に見て深慮せざるを憚り

慶尚道事情に關する
 釜山領事館の調査續

近年漸而釜山に洋數ヶ所に産稅所之設け
 られ、其の下の船舶を監視し張り、1枚
 の船票に於て、其の下の船舶を監視し張り、1枚

右前等地方以上所記分區賦金は、山嶺を
此の總數に以便該處分區賦金有誤無
誤檢査各官加意精料爲要係備

年 月 日

大日本帝國領事館 某(印)

上付されば、是は過欠額帳所用なり。各邊支店
示して、本年賣入の貨物は、徵税と免かた
し。其後今日日難きもの、倉庫に積貯不仕
税の金の支除と見ると得ざらへは、實に欺し
む。又同と稱する所の、盜竊心る稅務所

(一)
んことと雖もやまなり 殊に空前絶後の
事件に對しては亦相當の大紀念物なからず

大 可
を被るが爲め内地に行商する者も其前買の
き條約上取税する能はざりしを拘らず屢
自己の貨物と華人所有物とを混同せられ
通過税と課せられ其都度紛擾を重むるの

物に對する通過税の税則を率ぐれば
△白米、石六十九文、二斗、一石、
十文、△太大豆、三斗、六十文、一豆（小豆）

親局に於ける露國の風向懸る不可なるある
 を見て危懼に堪へず速かにほ、平和と政
 し以て既に露國に放下せる資本の安全を針
 らんとて斯くは平和の説を提出し爾次其難を
 大に以て平和論と號吹せんと力むるものゝ
 なるべく決して露國政府の意思を代表する
 ものと認むるを得ず露國民は時勢判斷して
 かりの風説に迷はざるべし無きを要す

郵便貯金
 のはな

一思ひ立つ日は吉日也
 二豈は急乎
 三遊も格ばし山となる

(其の五)

又切手貯蓄金紙にて五厘一錢及一錢の三類

三遊も格ばし山となる

頤的なるにあり、
 野火と最もふさはしう音楽にあらずや
 野火と唯唯と語せ、あらゆるものに向つて
 其の脱離的活動を續けよこれをよ汝の使
 命なり
 〇時は春雨け霧と覺して深山の光景大古
 夫れなり花の雨に濡れし袖の寒く闇も
 けれき空の膝下として唯大なる山の冥
 として唯大なるに興深く、彼の人生なる
 闇の巷に埋れて久しく深山の春を感得し
 るわれには唯唯唯唯とのみ呟けしめぬ
 〇月の夜の望はまよふに吾夢みる詩の一
 〇水車の回轉するが如く人生の回轉は知
 す知らずの間に行はれ居るなりと水の枯

はかやう／＼しか／＼でございます生置
 とて君公の御爲にならざるもの實は切しめ
 てやうと心得まして「五」成程和身が立違
 理ならぬけれど是に角五兵衛へ暫時あ
 けなさい拙者より又よう／＼たすに意見を加
 けが良きはけりやういふ事でござる
 御前、御の御官美談に添じけるものんす
 御分よろしく御願ひ申します」コッゾ給
 五兵衛といふ男が重太郎を預かり家につ
 て御りまして九が成程一日と間に閉居つ
 書人をいたして拾ふのみ他出もいたしま
 な色書さめく髪角すれませんがやらんで
 いすから又氣病弱でも出てはならんで
 いまして五兵衛が「重太郎が前
 と間に書つて事々々として困なるが

[illegible]

証券貯金 証券貯金は支拂期の到来したる無期証券（割増金附のものなる）と雖も其割増金ども一又は其利札を以て郵便貯金に預入るものにして其種郵便貯金に勿論種郵便券與其債券其他所當の山業、滋養、莊屋、鰯井、石川、富山、鹿兒島、等各縣、滋養、及東京、京都、大阪、横濱、神戸、長崎、廣島、高松等の各の債券は之を郵便貯金に預入し、これを以て右等證券を所有し、其利子又は償還金を受け、其の爲め自ら銀行、或は銀行等に行くの煩なく、各官廳に

て其の同轉の己みしし。又吾等が同轉はを告げて死なざる門に開かれてありき。

●春 門 集

雪丈は見えて霞ひや富士の山
紅梅の海須路や明石の夕景色
紅梅やリッカン石の冠木門
京なまさは是が土産や出代女
韓人の牛曳く野邊や春霞

漢 詩

▲方外白寂下絶句者詩而非詩記行體
忘面已亡休容破格

辭 家 休

恰是早春餘寒時
火輪詩思掃却去
醉宿大草驛
不携妻妾不孤輝
這鄉胸胸無家累

湖風帆帆凍四支
海街山道景色奇
緩急托車孤獨失
旅亭晚餐酒一盞

にはよいが身体によくないナリ。能出した
て遊ぶがよい山へでも參つて氣保養をす
る。重有難うんじとします左様なれば御
出さして近き山へ至つて遊び始めました
のに氣もはれ〜いたして心持が〜
ので近頃では學文は其の儘にして山遊び
をいたして居るは或時のおまゝと相變らず
福山へ來りましてアチヲロヲヲを見物し
居まする足元に燈が一羽動かしません
居ますお叔父様によし土産をと重太郎が
ヨトと押へんとすると被て向ふへ飛ぶ

米國直輸入

野多店
商洋釘
新近整印

右多數人傳
り無誤續々
購求願上候

郵便貯金　官衙・兵營・工場等は於て七、七五の
便費に金を預入ることを得べし

展所に於て其藝術又は科學を以て現世同
郷人に於ける利益となすことを得べし

郵政貯金　官衙・兵營・工場等は於て七、七五の
便費に金を預入ることを得べし

甲、業の總代人と指がし其總代人の名義
で預入を爲す者

右は業の指定したる總代人の名義を以

一輩知水山居
 內海絕景登雞窗
 北關南門燈影明
 源寂春望望笛笛
 外村梅花欲發時
 匪人何望春山景
 捨園捨身辭捨世
 敵人亦訪貧陽中
 火船輕浮心身清
 烟消浩茫遠天青
 拍歌高唱和絃聲
 橫雲縹中倚影忘
 投函金盞相相思
 一有一題知一釋

なりと追駈けて来てヒヨトと押へる又ヌ
リとぬける何うもアノ嫌といふものは
へても面にけけまするもの彼の一種の驚
きである。残念は心持で重太郎驚つた
は取らぬ。脱られては又乗せく鹿を追
獵夫由を見ず次第に山ふかを追入つて
ました

蛇食ふときけはおそろし嫌子の腹

しめん、爲めなむべし然れども、**殺して**車
情狀を懸察する、次日を返て、士氣益々々々
す。と同時に、**餘黨**、舞卒共に押經る、數に
いふ、**眞は**、村野の精林、湖邊に、兵無
き、我兵の假數を誤置して、兵無き處に、
ひ舞經に亂射す、ののゆゑ、又加へるに、我
其他の事故に、促り、機送せらるゝ、の意、
く、**路邊**、縁石にて、絶谷を、種々の、故障ありて、丁

(乙) 金の換戻に制限を附すること
右は規約者が互に合意せしめ、然る其後、突然
あり得たるもの外、金の拂戻と爲さるべしとの規約を設けたるものに對し各
局所に於て其規約を認め一定の證明

有花有月變西窓
坐石樽中不空酒
體新詩
木枯葉落冬の日の、永止閉ぢし藤の
東風發く南窓に、庭の白梅へつ
綻ひ初めて驚ひ、庭の白梅へつ
翠に萌ゆる苔の色、露拂ひく春の山

其の婦子といふは、屍體の中にて、案内の根のよきない奴でございまして、御案内のへに、娘とを奪ひます。娘は爲るがめ、お分存して一べんの羽印を娘をくにして之をくらいます人間、娘をあるを知つて居ますもので押へてける又おさへてはぬける人は残念と云ふ第一に山にみかく道づきのには深き谷落ちた脳骨を砕いて死に、其の腦血を

るも近時は大抵七百つ、の少数にしろ
千以上と雖も、一軍隊の移動し來ると
と所は總司令官軍公は奉天に在りてと
と意圖し居れりともなく、平壤、咸興
真州、近來此れどもぞ、平壤、咸興、
も來りて其電報に據る毎に我國民の

金の出費取費は最も安くあつて
 右は郵便局より定員出張して、金を
 扱ふものなるを以て郵便局所に出頭す
 及ばず他利なるは實に益なりし

朝鮮忠潮と

五とくすし 古山牛

第二回

新井村員録

記 演
 て何よもの愉快とする思へに實に驚
 島でございませう重太郎は若年として夫に
 かす邊に山ふかく入る。○よきか若
 く見へられたがなを疾く之と一人の老人に
 ひて重太郎も此方を疾く之と二人の老人に
 兎巾を頂たし手には金剛杖を携さへ香
 焚を香負ひハツ目のわらに黒色の脚絆
 ぞと知れたる。山伏が立つ。居ます。重

すゝもの少からざるが如きも作念に
全く虚構の言にして根據あるの証に
可し。廣州の軍隊及び民衆は對

○野火は唯何んとなく美はし、野火は唯何んとなく偉大也、野火は唯何んとなく特んとなく偉大也、野火の性は其の何んものをも焼き盡さ也。

な處ろをこらんに入れ其はだ赤面の
でございます 五「なにこどじや現在の
太郎を如何なるおどをいたせしや知ら

なりはふしんに心得^{こころえ}まして物をもいはずに
子重^{こぢゆう}伏^ふの顔をみつめて居^ゐました由^{よし}伏^ふり尤^{なほ}こ
くしく笑^{わら}顔をなして重太郎^{ぢゆうたろう}のよいへ

爲_レ一_二三_一のやせられ木をへう無_レ独_レた

朝鮮日報

●朝鮮の田賦及び地租

朝鮮の田賦及び地租は、日本に併合されてから、漸次増徴されて來た。其の増徴の程度は、年々増加して來た。其の増徴の程度は、年々増加して來た。其の増徴の程度は、年々増加して來た。

●居留民會の組織

居留民會の組織は、居留民の利益を代表し、居留民の意見を政府に伝えることを目的とする。其の組織は、居留民の代表者からなる。

●居留民會の組織

居留民會の組織は、居留民の利益を代表し、居留民の意見を政府に伝えることを目的とする。其の組織は、居留民の代表者からなる。

●居留民會の組織

居留民會の組織は、居留民の利益を代表し、居留民の意見を政府に伝えることを目的とする。其の組織は、居留民の代表者からなる。

朝鮮の田賦及び地租は、日本に併合されてから、漸次増徴されて來た。其の増徴の程度は、年々増加して來た。其の増徴の程度は、年々増加して來た。

特別大安賣

此の外諸雜貨

石川勝治商店

有價證券買賣

電話委託應

御不用方へ御報

知願上候

津田光藏

電話委託應

御不用方へ御報

知願上候

御旅館

電話委託應

御不用方へ御報

知願上候

萬物金

信用金

打金

金店

新古製造賣

布類

衣類

雜貨

日本居地役所

緊急廣告

公告

文珠堂

大慶寺

金井

周子

大慶寺

金井

印車

大慶寺

金井

安實比林丸

妙振出

和漢洋行

妙振出

和漢洋行

妙振出

和漢洋行

妙振出

妙振出

妙振出

和漢洋行

妙振出

